

えんばわ

67
号

Empowerment For All
エファジャパン

特集

読書から誰一人取り残さないように

バリアフリー図書





私たち日本人は、「点字」「大活字本」「音声図書」など、障害があっても読める図書の存在を知っています。しかし、エファジャンプの支援国には、これらの図書はほぼありません。過日、カンボジア・ラオスに出張したエファ海外担当者が、日本のこの図書を現地の方々に見せたところ、我先にと手に取り、大きな関心を寄せてくれました。

「支援国に、障害がある子どもの教材がない」と嘆く前に、現地でこのような図書・教材をつくれなにか。現在、エファではこの教材開発に取り組んでいます。

そこで今回は、この教材「バリアフリー図書」について考えてみたいと思います。

Vol.67 CONTENTS

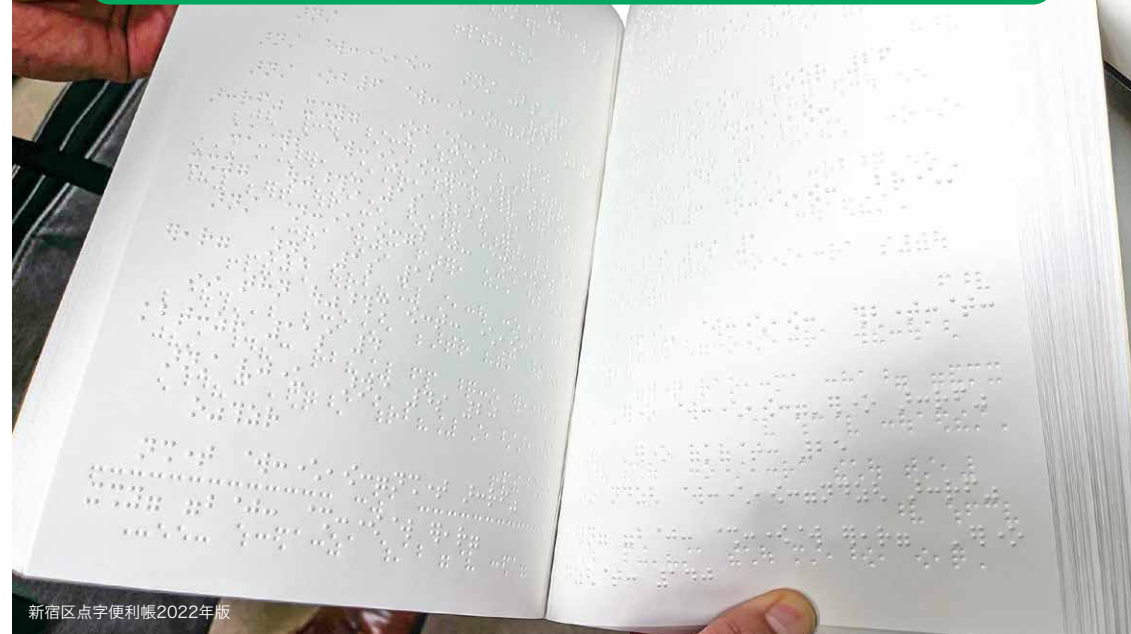
03	バ リ ア フ リ ー 図 書	特集	本のバリアフリーとは？
05			日本のバリアフリー図書の事例 —新宿区立戸山図書館—
07			ラオス、カンボジアのバリアフリー図書を取り巻く状況 —障害児教育の課題—
09			NGO による障害児教育 —エファジャンプの事業紹介—
11			アジアまちかどライブラリー —ラオス—
12			ムッペアック（クメール語で「仲間」） —自治労大分県本部のエファグッズ販売—
13			サバイディー（ラオ語で「こんにちは」） —障害への理解を深めてくれる本—
14			コーヒーブレーク

今号の表紙

カンボジア 障害がある子どもたちの支援団体CADDP
開所式（左側写真もCADDP。代表サム・オーウンさん）。



本のバリアフリーとは？



新宿区点字便利帳2022年版

さまざまな身体的障害から、本が読みたい方々がいまます。例えば目の不自由な方(視覚障害)、運動機能障害の方、学習障害の方・・・。

読むことに障壁(バリア)があったとしても、「誰もが読書ができるように」と作られたものがバリアフリー図書です。

読書はすべての「学び」と「情報アクセス」の基礎となるものです。それは、私たちにとって生涯にわたり生活の質に直結することがらです。

バリアフリー図書の種類

代表的なものは「点字を用いたもの」「音声を録音したもの」「文字が大きい大活字本」「手話を用いたもの」「LLブック」「布の絵本」「マルチメディア」です。その一部を以下に紹介します。

LLブック…LLとは、スウェーデン語 Lättast(やさしくてわかりやすい)の略です。絵や記号、写真などを使い、知的障害を持つ人や、日本語が母語ではない人々にも、わかりやすい表現で作られています。

布の絵本…さわる絵本。布地に文字・絵が刺繍で表され、布の一部が紐で飛び出したりします。視覚障害や、認知障害、怪我、病気のリハビリなどにも活用されています。

マルチメディア…CD、パソコン、タブレットなどを使用し、読

次頁以降、バリアフリー図書の日本の取り組み、支援国の現状、エファの障害児への教育支援について紹介いたします。

障害のために本が読みたいとしても読めない状況は「本の飢餓」と呼ばれています。支援国のこのような状況を改善すべく、エファも微力ながら貢献していきます。

世界の現状

国際的な仕組みに「マラケシュ条約」があります。著作権の制限・例外を認め、国境を超えバリアフリー図書を交換・共有することを目指しています。2020年末までに合計加盟国が102か国に達した一方、バリアフリー出版物の割合がまだまだ少ないという現実もあります。

国際的な取り組みとしては他に、IBBY(国際児童図書評議会)が、毎年「世界のバリアフリー児童図書」の選定を行い、各国でバリアフリー図書の認知向上活動をされています。

バリアフリー図書のこれから

足元を見れば日本でも、出版社、専門業者をはじめ、図書館などのボランティアによるバリアフリー図書づくりが着実に進められています。しかし、エファジャパン支援国のカンボジア、ラオスでは、障害を持つ人々のための図書・教材を、ほとんど手にすることができません。



前:通常の青い鳥文庫
奥:拡大版(A5サイズ、210mm×148mm)



手前:通常の青い鳥文庫 奥:拡大版

日本のバリアフリー 図書の実例

― 新宿区立戸山図書館 ―

新宿区立戸山図書館は、同区の障害者サービスの拠点となり、録音図書の製作も担っています。緑豊かな団地の中にあるこの図書館にお邪魔し、バリアフリー図書について、矢部館長、谷口副館長にお話を伺いました。

当館のバリアフリー図書の取り組みは、40年ほど前、視覚障害者向けの対面朗読から始まりました。そこから、カセットテープやCDなどを利用した録音図書の製作、貸出を行ってきました。また、誰でも利用いただける、大活字本、ＬＬブック、点字付き絵本、布絵本などの、バリアフリー資料を展示、貸出も行っています。

現在はPC、タブレットなどを利用したマルチメディアアディアジーが普及してきています。音声読み上げ機能、テキストの

月ほどかかります。音声版の新宿区史を作ったときには、1100頁超の本を音訳者など10数人で取り組み、2年ほどかかりました。

はじめは年間数タイトルだった製作数も、現在ではデージー形式に変わったことで効率化が進んだことや、新たな音訳者を募り、理解者や協力者を得られたことで、年間60タイトルほどに増えました。



デージーの再生機が表紙の戸山図書館資料

人気の本は？

利用者の中には、病気や事故による中途失明者もいます。読書家だった方の「本を読みたい」という情熱は障害を受けても変わりません。当館の図書だけでなく、現在は国会図書館やサピエ図書館の録音・音声図書などを全国で共有する仕組みがあり、登録すれば個人利用もできます。当館で製作した資料も、国会図書館へ納め、そこからサピエ図書館でも利用可能になります。録音図書やサピエ図書館の利用を案内しますと、「読めないと思っていた本が読めるようになった」と喜ばれることも多くあります。

リクエストが多いのは文学です。ミステリー、時代小説など、



矢部館長



谷口副館長

拡大縮小、画像の反転やハイライト機能、読む速さの調整ができるなど、視覚障害者だけではなく、発達障害者や知的障害者にも使いやすい、将来的には手話動画を加え、あらゆる障害に適したバリアフリー図書になることが期待されています。

録音図書の製作

録音図書の製作は主に、当館とボランティアグループ「声の図書館研究会」が協力して行っています。誰でも製作できるわけではなく、まず募集を行います。3年間の講習を受け、総合的に適性のある方が音訳者となります。更に毎月勉強会を開催し、技能の向上に努めています。調査、録音、モニター、編集、校正などの工程を経て、完成には200頁程度の文庫本でも6か

人気のもの是一般と同じです。また、医学書、実用書や参考書、教科書も必要とされていますが、図表やイラストなどは、音声変換が難しく、わかりやすい形で表現する努力をしています。

環境のバリアフリー

資料の製作だけでなく、利用環境のバリアフリーも大切です。当館は独居高齢者が多い地域にあり、PCが使えない方には、音声デージーがCD形式で使える再生機の貸し出しを行っています。また、視覚障害者への郵送貸出や、肢体不自由など来館が難しい場合は図書館からご自宅まで本を届けるサービスも実施しています（区内在住の方のみ）。

他にも隔月で「声の図書館だより」を発行し、新着の録音図書の案内などをデージーにし、CDに焼くなどして郵送しています。また、当館のパンフレット「障害者サービスのご案内」は、活字版、大活字版、点字版、音声版、テキストデータ版の5種類を用意し、できるだけ多くの人に届くようにしています。

利用者の皆さん、ボランティアの力、地域の連携による資料づくりなど、障害がある人もない人も、地域全体で支え合っていることが、図書館という場所から生れていることを実感しています。そうしたつながりや関係を作ることこそ図書館の持つ役割なのだと思います。

ラオス

ラオスでは社会的データを収集するシステムが未整備な部分もあり、情報に限りがありますが、まずはラオスの障害をもつ子どもたちの状況をお伝えします。

2017年に行われたラオス社会指標調査は、2歳から4歳までの子どもの2%に障害があると報告しています。ラオスのユニセフは、子どもの障害の原因の多くが、妊娠や不適切な場所での出産、幼児期のけがや病気、不発弾による被害によるものと発表しています。また、障害がある子どもは、虐待や搾取の危険にさらされているとも警告しています。

ラオス教育省は、2021年からの5カ年計画でインクルーシブ教育（障害がある子と障害がない子が共に学ぶ）の実現を目標の一つとして掲げています。そのため障害に対する教員やコミュニティの理解の促進、学校の環境整備を通じて、障害を持つ子の就学率向上を目指しています。

学校の環境整備の中で、バリアフリー図書・教材の提供に課題があります。エファジャパンが、首都ビエンチャンの市場を調査したところ、点字、大活字本などの図書はありませんでした。手話はラオスの聴覚障害者協会（Association for the Deaf (AFD)）が開発・



カンボジア国立図書館

カンボジア

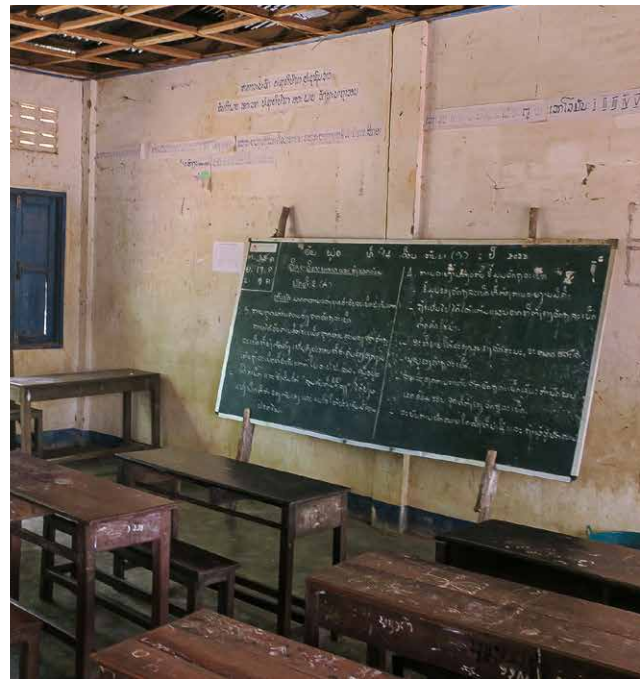
2019年に行われたカンボジアの国勢調査によると、5歳以上の国民の4・9%に障害があります。

カンボジアでは内戦によって、バリアフリー図書はもちろん、ほとんどの図書が燃やされました。また作家や画家が処刑の対象となったために、あらゆる出版事業が立ち遅れています。

1993年に現在のカンボジア王国が成立し、国の再建に向けて本格的に動き出しました。教育分野では、教員が内戦前の2割しか生存していなかったため、まずは教員を育てること、そして学校建設に着手します。その後、「障害児教育に関する政策マスタープラン」が王国成立から16年たった2009年によりやく出来上がります。

現在、カンボジア教育省は「2019年～2023年インクルーシブ教育行動計画」に則り事業を展開しています。その中で、聴覚障害と視覚障害のある生徒に対する適切な教育の機会の提供のため「教員が関連するトレーニングを受けること」、また特に「低学年向けに適した読書教材の使用」を唱っています。

8月に、そのカンボジア教育省を訪問したところ、「点字教材は首都のプノンペンなど大都市圏のモデル校のみで使用されていること」「手話は障害者支援NGOが開発しているがまだ学校現場で普及していないこと」「デジタル図書館整備計画がある一方デジタルバリアフリー図書が存在しないこと」を課題として挙げられていました。



ラオスのター・コック・ハイ第2小学校

普及を始めていますが、まだ全国には及んでいません。また、エファが図書館の運営支援をしている学校を巡回した際、校長や図書館員にヒアリングをしましたが、バリアフリー教材は学校にありません。点字・手話を使える教員がいなくとも課題として挙げられていました。

今年度よりエファジャパンは、障害がある子どもたちへの支援を本格的に開始しました。その中で、課題となっているのは、教育支援をする際の教材の確保です。ここでは、ラオス、カンボジアのそれぞれの事業を報告します。

進行中の事業でもありますが、皆さまのアドバイス、ご支援をいただけるとうれしいです。

ラオス

「思考とスキル向上のための読書推進プロジェクト」

障害がある子どもたちこそ、より多くの情報に接するべきです。彼ら彼女たちは虐待の被害にあいやすく、それを避けるための方法や、子どもたちが自身が自分の持つ権利など、「よりよく生きるための情報」を提供したいと考えました。

そこで、現地NGO「CHH (Children's Home Foundation)」と協働して、障害がある子どもを中心とする多くの子どもたちに、情報や教育を提供する事業を実施します。コロナ禍で学校閉鎖が続いていましたが、2022年11月より事業開始をしました。

情報や図書の提供手段として、移動図書館車を用意します。まだ図書室が整備されていない学校に本やタブレットなどを積んだ車を巡回させます。またCHHの建物の一角に障害がある子どもたち



カンボジアのチルドレンスタディクラブ

も通える図書室を設置します。

お伝えしたように、ラオスでは障害がある子どもたちのための教材が皆無に等しい状態であるので、専門家と協働で教材の開発を進める予定です。

また、図書室の運営の方法、選書や本の活用の仕方、子どもたちへの教授法などを伝え、実践してもらうための教員へのトレーニングを提供します。

ラオス国立図書館や関係省庁と定期的な会合を持ち、現場の声を伝えることで政策として反映されるよう提言活動を行うことも重要です。持続可能なラオスの未来づくりのために政策提言は、とても大切です。



ラオスの学校の生徒たち

カンボジア

「農村部の障害児のライフスキル向上プロジェクト」

「障害がある子どもたちが自らの力で課題を解決するため能力（ライフスキル）を得る」ことを目標として、カンボジアのNGO「CADDP (Cambodian Agency Development of Disability and Poor)」と一緒に以下の事業を計画・実施していきます。

カンボット州の農村部にある3村に、障害がある子どもたちの学びの場となる「チルドレン・スタディ・クラブ」を設置。ここで字の読み書きや計算などの教育を実施し、併せて子どもの権利、公衆衛生など、生きていくうえで必要な情報を届けるため、子どもたちを対象としたトレーニングワークショップ開催しています。

また日々の生活を支えるため、収入源を得るスキルトレーニングを、障害がある子どもたちと保護者を対象に実施しています。具体的には、家庭菜園づくりや養魚についての研修会を実施。タネの配布も行いました。

カンボジアでも、障害児向けの教材が不足しているため、日本での調査などを踏まえ、開発を行います。

また、カンボット州の教育局、福祉局、学校の校長や障害児の保護者とコミュニケーションを取り、障害児教育への理解を広げる活動もします。また、教材開発についてもカンボジア教育省、福祉省、カンボジア国立図書館とも連携し実施していきます。

自治労大分県本部の エファグッズ販売



吉川祥平さん

ムペアック

クメール語で「仲間」

エファをご支援
いただいている方々を
ご紹介します。

大分県本部では、定期大会や臨時大会開催時にエファグッズの販売を行っています。会場出入口付近にブースを設置し、会場に集まった代議員のみなさんが昼食休憩時にエファグッズを購入しやすいようにポスターの掲示とグッズの展示を行っています。今年は、象のペン立てやチェック柄のペンケースなど、伝統的な柄に加えたさまざまなグッズがあり、集まったみなさんも注目していました。私はピンク色のポーチを購入し、モバイルバッテリーなど小物を入れる袋として大活躍しています。昨年購入した、がま口の小物入れ

エファジャパンでは、ラオス・カンボジアの障害者の職人、職業訓練センターで学んだ女性、少数民族が作った手工芸品を仕入れています。それを「エファグッズ」として日本の方々に買っていただき、事業の支援に役立てています。

今回は、そのエファグッズを販売してくれている自治労大分県本部総務教宣部長の吉川祥平さんに原稿を寄せてもらいました。



大分県本部さんの販売ブース

もお気に入りです。購入いただいた方からも「今年の柄もかわいい」「毎年買っています」などたくさんの方の声を聞きました。

支援としては微力ながらも、毎年継続してエファグッズの販売やリサイクル募金などで協力をさせていただいております。今後も大分県本部として、継続的な支援を行っていきたいと思っています。



アジア ラオス ライブ러리



ラオス人の友人に連れられて、首都ビエンチャンの中心部から5分ほど車を走らせてトンカンカム市場へ。庶民の胃袋を支える姿は健在で、肉や魚、野菜などの生鮮食品、衣料品や生活雑貨がところ狭しと並んでいます。駐在時代、初めて足を踏み入れた時、豚の頭がゴロゴロ、鶏が絞められている姿に足がすくんでしまいました。その後4年間お世話になりました。昔はハエを追いかうのは団扇でしたが、今は電動化されています！（関）





今号の特集は「本のバリアフリー、って何？」でした。「読むこと」に障壁のある人々が本を読みたくても読めないのは、決して遠い海外だけのことではない…。「読んでもらうこと」をなりわいにしている私たちにとっても看過できない現実です。

と、本のことを考えていて、取材などで邪魔した事務所や自宅の本棚を眺めると自分の趣味に気づきました。客人が来る場所にあるのだから見ても失礼ではないのだろうと勝手に解釈して、この人はこんな本を読んできたのか、こんなことに興味があるのか…などと見入ってしまうこともしばしば。

なかでも心をくすぐられたのが壁一面の本棚でした。多岐にわたるジャンルの大量の本をおさめた本棚は、その人の人生そのものを表しているように思えました。

そこで今年、自宅の部屋の壁を本棚で埋め尽くしてみました。本を読めるありがたみを実感しつつ、まだ空いている棚にこれからどんな本を置いていこうか思いをめぐらせています。(了)

理事 学頭貴子(日本経済新聞社 編集 金融・市場ユニット記者)

サバイディー

ラオ語で「こんにちは」

障害への理解を深めてくれる本

バリアフリー図書の中で、障害がある子どもにも読める工夫がされた本の他に、障害がある人を描写した絵本があります。以下に、その絵本を2点、紹介いたします。

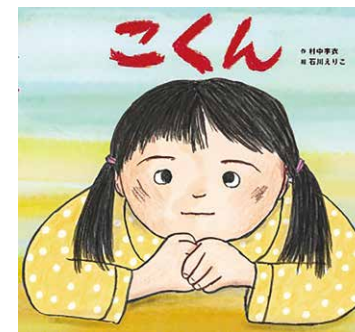


さっちゃんのまほうのて

たばた せいいち/先天性四肢障害児父母の会/
のべ あきこ/しざわ さよこ
1985年偕成社 本体価格1200円
ISBN978-4-03-330410-6

主人公は、生まれつき右手の指がない、4歳から歳の女の子です。彼女は、周りの子どもたちの接し方から自分の障害を自覚させられるのですが、親からの愛情を受けそれを克服していきます。この本が出てから30年以上がたちました。同じ障害がある子ども、家族を元気づけ、障害がある人や、多様な人との接し方を教えてくれる本です。

ラオス・カンボジアに、現地語で内容紹介をしたところ、とても強い関心を寄せてくれました。



こくん

村中李衣 作/石川えりこ 絵
2019年童心社 本体価格1300円
ISBN978-4-494-016310-0

足が不自由な主人公の女の子。大好きな「つばさえん」に、歩行器を使って通園します。友だちの男の子は、最初は興味本位で接しますが、彼女の自立の道を一緒に進んで行きます。女の子は、強い意志で園の階段を登り、日常で自分の力で打開していきます。障害がある子どもはかわいそうな存在としては描かれず、あらゆる読者に力を与えてくれる内容になっています。

この冬、子どもたちに本をプレゼントしませんか？

「歳末募金2022」 キャンペーン、実施中です。



期間：2022年11月21日～2023年1月30日

銀行振込

中央労働金庫 市谷支店 普)1442725 トクヒ)エファジャパン
三菱UFJ銀行 市ヶ谷支店 普)1340692 トクヒ)エファジャパン

郵便振替

00190-6-723415 加入者名)エファジャパン

クレジットカード

「Syncable(シンカブル)」→「エファジャパン」でネット検索
エファジャパンページのキャンペーン「エファジャパン歳末募金2022」へ

カンボジアでの小学校の卒業率は82.1%ですが、障害がある子どもに限ると22.9%になってしまいます。教育の機会は平等に与えられなければなりません。しかし、現実には様々な課題があります。

エファジャパンは、障害がある子どもへの支援をしています。子どもたちが、自分の力で生きてくための能力(ライフスキル)を身につけられるよう、日々活動しています。

障害の有無に関わらず、読書や教育から誰一人取り残さない。エファはこれからも挑み続けます。私たちと一緒に、この世界を本の力で変えていきたいと思います。

えんばわ 通巻67号(2022・12・冬)
2022年12月15日発行

発行人：伊藤道雄
編集協力：(株)MAG MAG、蒔田清二
発行所：特定非営利活動法人エファジャパン
〒102-0074 東京都千代田区九段南3-2-2 九段宝生ビル3階
TEL:03-3263-0337 FAX:03-3263-0338 Email:info@efa-japan.org
<https://www.efa-japan.org/>

※エファジャパンは、全国の地方公共サービスに携わる人たちが応援する、国際協力NGOです。アジアの子どもたちへの教育文化支援・福祉支援を行っています。
※認定NPO法人であるエファジャパンへのご寄付は、税制優遇の対象です。